

巻頭言 「心を騒がせず」

宇野 元

——治められているからね。トゥルナイゼンは、友人が語る言葉を、電話口で書き留めました。それがバルトの死ののちに印刷され、おおやけになりました。9月に紹介させていただいた言葉を詳しく引用してみます。

うん、世界は暗いね。でもしょんぼりしちゃいけないね。絶対に。治められているからね。上より、天より。神が統治の座にいらっしゃる。だからぼくはおそれない。どんなに暗いときも、確かな心であり続けよう。すべての人の望み、すべての人の世界の望みを手放さないようにしよう。神は、ぼくらが倒れるのを許されない。ぼくら個人が、また皆がそうなるのを。治められているよ。

治められているよ。合言葉のように繰り返されるこの言葉は、二人の共通の師、クリストフ・ブルームハルトが、父親の臨終の際に語った言葉に由来します。面白いことに、もとの言葉は「パパ、勝利されているよ」というものでした。それが伝言ゲームのように、いつのまにか「治められている」に変わって広まりました。治められている。勝利されている。どちらも単純で味わい深く、私たちが合言葉にできる言葉ですね。

東西冷戦と核戦争の恐怖。ベトナム戦争。ケネディ兄弟や、キング牧師の暗殺事件。世界規模の学生の反乱と社会の混乱。1968年の二人のクリスチャンの会話は、現在の私たちにとって、示唆に富んでいると思います。すなわち、目にする状況にいたずらに心を騒がせず、落ち着いて信頼しているように。

聖書のはじめに記された、天地創造の記事は、混沌の状況が、秩序づけられてゆく様子を示しています。とらえ難く底知れない世界のなかに、くっきりとした輪郭線が生まれます。漆黒の闇は、澄んだ輝きと、美しい色彩に取って代わられます。海はすべてを覆い尽くすことなく、陸地によって制限されます（創世記第1章）。

そして神は、御子を世にお贈り下さいました。それは私たちが生きるため、それも確かな歩みを作るためです。どのような暗闇も治められています。イエス・キリストによる勝利が与えられています。